

鞠智城跡と菊池一族の関係

▼鞠智城跡の概要

鞠智城跡は白村江の戦い(663年)での敗戦の結果、唐と新羅連合軍が日本に侵攻したときの防衛目的で築造された古代山城の一つです。鞠智城跡の最新の調査成果がまとめられ、総括報告書が刊行されました。その報告書で、7世紀後半から10世紀後半まで鞠智城は存続していたことが述べられています。城の終わりの時期が以前の考えよりは新しくなり、鞠智城の終末期の役割は当初ものから変化していった。それは米を貯蔵する倉としての役割が中心になっていました。

▼鞠池氏の源

鞠池氏の起源については、かつては11世紀初め大宰権帥として赴任し、寛仁3年(1019年)の刀伊の入寇を防ぎ戦功をあげた藤原北家の隆家の子孫であると考えられてきました。その子孫は延久2年(1070年)ごろ都から肥後に出向き、菊池に住み着いたと想定されています。最近の研究では、則隆や政隆は「肥後国人」と書かれています。ことから、肥後の武士団が鞠



鞠智城跡

池氏の祖であると考えられています。具体的には、九州の中心である大宰府の官人として勤めていた肥後菊池の役所の長官である郡司か軍団長の一族が菊池氏であると想定されています。

▼鞠智城跡と菊池一族

古代山城である鞠智城は律令体制の組織である大宰府の管理下にありました。鞠智城の終末期は米を保管する倉としての機能が主なものである中で、鞠智城と菊池郡の役所などは当時の菊池郡内に存在しており、その関係はとも深いものでした。また、鞠智城跡の終末期が以前よりは約100年長くなっており、菊池一族の発生時期と鞠智城跡終末との時間差が短くなりました。そうすると、鞠智城と菊池郡の役所と菊池氏の三者の相互関係は密接なもので、菊池氏の起源を鞠智城と関連するものと推定することができます。

人権・同和教育シリーズ(150) 「いじめの重み」を考える

菊池市地域人権教育指導員 宮川淳一

私たちの日常生活では、たくさんのごばを使って、「コミュニケーションツール」として互いの人間関係を深めています。まさに、ことばは人間関係を築いていく上では、大切な役割を果たしていると言えます。

日本語の中で、美しいことばの一つに、「ありがと」があります。家族や友人、近所の人たち、仕事関係の間からにおいても、この「ありがと」ということばで、何かホッとさせられた経験を皆さんもお持ちではないでしょうか。一昨年の熊本地震の際も、ことばで勇気づけられ、明日への一歩を踏み出した人がたくさんいます。

しかしながら、ことばの使い方によっては、相手を不快な思いにさせたり、傷つけたり、時には命に関わることもあり得ます。発したことばが相手にどう受け止められているのか、相手の気持ちを考えなくてはならないこともあります。私も不用意なことばで、友人の怒りをおこしたことがあります。そのときは、お互いの心の傷が癒やされるまで相当な時間がかかりました。ことばは使い方によって、

人とのつながりにもなりますが、一方で関係を断ち切ることもあります。

次に、ことば・表現をめぐると例を紹介したいと思います。

- ① Aさんは、地域のボランティアとしてシッティングバレー(足の不自由な人が床に腰を下ろした状態で行うバレーボールのこと)の指導をしていました。初めは、コート脇の義足やまっば杖にとまどったことも。しかし、取組を進めるうちに純粋にバレーボールを楽しむ彼らの姿にひきつけられていきました。Aさんが、遠征試合を前に、選手たちに交通手段の確保を確認するために声をかけました。「明日からの遠征に行くのに、足のない人？」選手たちは笑いながら、「おれたちみんなないよ」と返しました。なかには、義足をふりながらの人も。Aさんは、言ってしまうから、しまったと思いました。

【人権をさがして(解放出版社)より引用】

- ② 宴席での会話です。「今日、帰りに足のない人？」と、だれかが尋ねると、Bさんはとても悲しい



菊池夢美術館情報

問い合わせ先 菊池夢美術館 ☎0968(23)1155

第15回 きくちわいふのひな祭り

期間 ~3月11日(日)

ひな祭りコンサート

3月3日(土)午後1時~ 親子KOTO デュオこととチェルト
3月8日(木)午後1時~ 菊池の昔話 紙芝居とコカリナ演奏
3月10日(土)午前11時~ 高森郁子ミニコンサート

他にも子どもから大人まで楽しめる、ひな祭りに合わせた体験教室も開催しています。



開館時間 午前9時~午後6時

※休館日はありません。

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

【ギャラリー】

「桜のある風景」鶴長広志

期間：3月13日(火)~4月1日(日)

桜のある風景の四季の表情を集めました。ぜひお立ち寄りください。

「絵手紙展~私たちの1年間の取り組み~」夢美会村川尚子

期間：4月3日(火)~22日(日)

「上手く描くより心を届ける」に重きを置いて交流してきました。そんな1年間の活動の集大成です。

【まちかど資料館企画展】

「菊池川流域巡回展」

日本遺産 菊池川流域の米作り

~人と大地に刻まれた二千年の記憶~

期間：~3月31日(土)

開館時間 午前9時~午後5時

※休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)。



◆「ニューツーリズムと地域づくり」
従来の旅行商品は、商品を開発し集客し目的地へ送客する「マストツーリズム」と呼ばれていました。近年、旅行が多様化する中で登場したのが「ニューツーリズム」。ロケ地をめぐるスクリーンツーリズム、工場を巡る産業観光、スポーツツーリズムなど、スタイルもさまざま。ニューツーリズムは、これまで観光資源としては気づかれていなかったような地域資源の活用が地域活性化につながるものと期待されています。
旅行に求める3大要素といわれるのが「体験・学習・交流」。その中でも人とのふれあい「交流」がニューツーリズムの最大の特徴といえます。つまりは地元の人との交流を望む旅行者が増えているということです。
ハード整備(設備投資)をしなくても「ハード」があれば観光客を呼び込める可能性を持っている! ということですね。

ふるさと緑の便り 菊池グリーンツーリズム

問い合わせ先 きくちふるさと水源交流館 ☎0968(27)0102

韓国発見シリーズ(6) 韓国発見シリーズ(6) 母の墓、朝鮮戦争の時の出来事



雪が降り積もった寒い冬のある日。深い山間の雪道を抜けた奥の谷間を年配の米国人男性が韓国人の青年と歩いて行きました。そして二人はある墓の前に立ちました。「ここがお前のお母さんを埋葬した所だ」と年配の男性が言いました。

朝鮮戦争中の1951年1月4日、中国人民義勇軍の参戦により、戦地から後退していた寒い日の出来事です。激しい戦闘の中で一人の米兵士が江原道の深い山谷を後退していたとき、雪の中から子どもの泣き声が聞こえてきました。雪をどかして子どもを助け出そうとした米兵は驚がくします。最初に雪の中から出てきたのは衣服を一切身に付けていない母親だったのです。彼女はすでに凍死していました。戦場から避難している途中で深い谷間に閉じ込められ逃げ場を失ったようです。それでもわが子を寒さから守るために着ていた服を全部脱いで子どもを包み、さらに自分の上体で子どもを包む様に覆い、そのまま凍死してしまっただけでした。

子を思う母親の姿に感動した米兵士は、凍った土を掘って母親を

気持ちになりました。というのも、身体に障がいのある家族がいたからです。その場ですぐに指摘すれば良かったのですが、和やかな雰囲気の中、顔見知りの相手に勇気が出ませんでした。

以上、2つの事例を紹介しました。①の事例では、何気なく言った後に、周りの雰囲気から、「ハッ」と自分の発したことを振り返っています。この場合、自らが使ったことばの不適切さに気づくことができた事例といえます。②の事例では、ことばを使う側は、差別の意図はないように思いますが、人を傷つけたことに気づくことができないままに終わっています。

このように、私たちが日常的に話す会話の中にも、知らないうち

に人を傷つけてしまうことがあるのではないのでしょうか。ことばを使うときには、そのことばのもつ本当の意味「ことばの重み」を理解し、受け止める側の気持ちに配慮した使い方を意識していく必要があります。

埋葬し、母親の胸で泣いていた赤ん坊をアメリカに連れて帰り自分の息子として育てました。子どもが青年に成長すると、米兵だった養父はその時の状況を息子に話し、凍った土に埋めた母の墓を訪ねました。雪がうず高く積もった墓の前に青年がひざまずくと、熱い涙がほおを流れ足下の雪を溶かし始めました。しばらくして青年は立ち上がり、着ていた服を脱ぎ始めます。裸になった彼は、墓の上に積もった雪を両手で丁寧に落とし、雪を両手で丁寧に

「お母さん、どれほど寒かったことか!」「愛情深いお母さん。僕はお母さんを誇りに思います!」「お母さん! 会いたい。夢でもう一度会おうことができたら...」
青年は母の深い愛に涙を流して感謝しました。

